

自然素材で健康に！

## 素材で選ぶ自然派エコフロアーの話

### 1 目を閉じて感じてみる

室内空間の中で最も重要なのは、床ではないでしょうか。素足で生活する私たち日本人にとって、いつも直接体と触れている場所だからです。床は毎日酷使されているわけですから、当然、消耗も一番激しくなります。つまり、メンテナンスにも一番気を遣う場所なのです。そしてなぜか、気持ちの良い床ほど手入れに手間がかかり、しっかりと面倒をみなければいけません。健康リスクの少ない建材、踏み心地の良いナチュラルな素材とはそういうものなのです。

近年のシックハウスなど化学物質による室内環境の悪化は、床からの影響が最も大きいといえます。これは、表面の仕上げ素材のみならず、下地の合板や施工の接着剤の複合的な問題ですから、これらを全てクリアしなければ意味がないことでもあります。上昇気流によって床から運ばれる空気は、そこで生活する人に絶えず影響を与えることになるからです。目を開けていると、かえって見えないこともあります。五感で何かを感じてみたいいな

### 2 家を建てる時どんな床材が使われるのか？

床の仕上げ素材は使う用途によっても区分されますが、最近では住宅の健康志向からフレキシブルな自然素材が見直されてきています。

#### 木質フローリング

最もメジャーな床仕上げです。木質フローリングは大きく2つに区分されます。製造加工時のエネルギー消費が低く、化学接着剤などを使用しない無垢の材料でつくった単層フローリングと、合板や木質系ボードの表面に木を薄くスライスした皮を張り付けた複合フローリングです。自然素材ブームから、無垢のフローリングが見直されてはいますが、実際には全体の90%以上を複合系フローリングが占めています。

ら、部屋の真ん中で目を閉じてみるというでしょう。さて、あなたは何かを感じますか？ 少なくとも僕は、今、足から伝わってくる柔らかな温もりと、しっかりとした木の温もりと、全身を包み込むまろやかな空気を感じています。

#### プラスチックフロアー

一般住宅で水まわりに使われているのは、塩化ビニール製の長尺シートフロアーです。ビニールクロスと同様に、軟らかくて加工しやすく耐水性があり、価格も安いので、急速に普及しました。しかし環境や健康に対するリスクが高いため、脱塩ビは、21世紀のテーマでもあります。住宅のコーディネートに使うような少ない面積であれば、多少割高であっても自然素材を選びたいものです。

#### コルクフロアー

ワインの栓でお馴染みのコルクは樅の木の仲間。表皮から栓を抜いたクズを合成接着剤で固めて、30センチ角にカットしたのがコルクタイルフロアーです。断熱性・防音性・耐水性を備えた、暖かくクッション性のある素材です。僕たちは洗面所やトイレなどの水まわり、コンクリート床のマンションなどによく使っています。地下用の遮音シートとしても使われたり、接着剤を使わずに置き敷きするフローティング工法などもあります。コルクは表面の仕上げ処理にいくつものバリエーション

があり、ワックスで仕上げたものには素材本来の柔らかさが残っています。時代の流れが、メーカーも自然ワックスで仕上げた商品に力を入れているように思われます。

#### リノリウムフロアー

元祖・長尺シートといえば、リノリウムです。これを知っている人は結構いけてます。原料は自然素材だけで構成されていて、亜麻仁油と松脂を混ぜ、この中に木の粉・コルク粉・土の顔料などを混ぜ込み、ジコートの麻布に薄く塗布したものです。長尺シート材のほか、30センチや50センチにカットしたタイル状のものがあり、価格のにもずいぶん使いやすくなりました。抗菌性・耐薬品性・耐久性があるため、病院などにもよく使われる素材です。耐水性にはやや欠けますが、住宅レベルではまったく問題ありません。ただ、においに多少のくせがあります。

#### カーペットフロアー

住宅ではめっきり出番を失った感のカーペットは、繊維で出来た敷物です。ダニのアレルゲンが残留しやすいことや、住宅性能の向上で床が冷たくなってきたことが、影響していると思われる。長尺タイプと50センチ角にカットしたタイルタイプがあり、ナイロン・アクリル・ポリエステルなどを混合させた化学繊維カーペットと、ウール・サルサイ麻・ココヤシなどを合わせた、ざっくりとした粗さが魅力の天然繊維カーペットに区分されます。一般的には、どちらも防汚・防虫・抗菌の化学処理がなされています。また、カーペットの裏打ち処理の方法にも差があるので、その点もチェックしてほしいポイントです。接着剤を使わず天然ラテックスを使用した長尺タイプのカーペットや、ペットボトルの再生ポリエステルボードを使用したタイルカーペットなどがあります。

### 3 エコフロアーを選ぶ

#### 環境を意識して選ぶ

製造・使用・廃棄時の汚染リスクを減らすことは、今やエコ建材としてのお約束。自然素材といっても、接着剤や防腐剤などの化学物質をたっぷり含んでしまったものは、どうなんだろう。そう考えると完璧なエコフロアーは、それほど多くないのかもしれない。

石油を原料とするプラスチック床材の中では、ポリエチレンやポリプロピレンを原料にし、塩素や可塑剤を含まないオレフィン系の床材は、燃焼時の煙や有毒ガスの発生が少ない新素材。ポリオレフィンの長尺シートフロアーやカーペットタイプフロアーなどは、環境型エコフロアーの代表だといえます。

#### 健康を意識して選ぶ

冒頭で述べたように健康で安全な住まいづくりには、床

の素材選びが大切なポイントになります。2003年7月に改正された建築基準法は、有害化学物質の使用を規制するものですが、言い換えれば今の住まいは危険がいっぱいと認められることになります。

今現在、厚生労働省が室内濃度指針値を定めている化学物質は14物質ですが、数百数千といわれる化学物質が存在する中、今後どんな物質が規制の対象になっていくかわかりません。予防法はただ1つ。可能な限り、有害化学物質を含む床材の使用を避けること。素材本来の良さを残したプレーンな健康エコフロアーを探すことです。

### 4 いち押しエコフロアー

接着剤や防虫剤を使用していない無垢の、木のフローリング。ホルムアルデヒドを含まない接着剤で固めた、ナチュラルコルクタイル。どちらも無塗装品を、自分に合った

自然塗料やワックスで仕上げることが出来ます。予算が少ないからとあきらめることはありません。原木から製造されるフローリングの中には、柄ムラや節があつて一般には流通していない、Bグレードのアウトレットフロアーリングがあります。塗装仕上げを家族でがんばれば、さらにローコスト。いち押し

のエコフロアーです。

エコ塗料で染色すると、柄ムラも気にならなくなるのでおすすめです。床面積35坪くらいの住宅であれば、アウトレットフロアーリングと水まわりのナチュラルコルクタイル、自然塗料を買って、材料費は約40万円。ぜひお試しあれ。



エコフロアーの素材見本。エコスタイルショップ素材自店では、店主厳選の自然素材や自然塗料見本を展示している。



床材にコルクを使用した施工例。無塗装タイプを自然塗料で染色仕上げたユーティリティの床。

## Ecology House

### 環境と健康を考えたエコロジー建築

健康と地球環境のやさしさを大切にした住宅建築、店舗、リフォームがわたしたちの仕事です。エコスタイルショップ「素材自店」では、エコ建材や塗料など、こだわりの自然素材を展示しています。健康な住まいを考えるユーザー必見です。

### エコフロアーのお掃除とメンテナンスに！

水性ワックス 自然成分100%

ドイツリボス社の「グラノス」は、人と環境にやさしい自然成分100%の水性ワックス。7種の植物ワックス配合でニオイも気にならず、アレルギーの方も安心のエコワックスです。お掃除のクリーナーとして、水で薄めて使うこともできます。

#### グラノス

1リットルボトル ¥4,500  
(消費税別・道内送料¥500)

ご注文・お問い合わせは下記までご連絡ください。



#### エコスタイルショップ素材自店

エ / コ / ロ / ジ / ー / 建 / 築 / 工 / 房  
一級建築士事務所

#### (有)西條インテリアデザイン

本社 / 札幌市北区百合が原4丁目8の1  
(百合が原公園向かい)  
TEL 011-774-8599  
E-mail:eco@saijo-d.com  
伊達支店 / 伊達市舟岡町50-28  
TEL 0142-22-0138

http://www.saijo-d.com

#### PROFILE

西條正幸 Masayuki Saijo

エコロジーデザイナー。1960年伊達市生まれ。札幌を中心に商業施設のインテリアデザイナーとして活動。現在は人と環境にやさしい居住空間をテーマに、エコロジー建築による店舗住宅の新築、リフォームの設計・施工、エコロジー建材のコーディネートなどに応じている。一級建築士事務所(有)西條インテリアデザイン設立。代表取締役。エコスタイルショップ「素材自店」店主。

